

第2回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画・管理運営検討合同部会 (第6回 基本計画検討部会・管理運営検討部会)	
日時	令和2年 11 月 16 日(月)14:00~16:00
開催場所	KGU 関内メディアセンター8階 M-803
出席者 (敬称略) (8名)	<p>【基本計画検討部会委員】</p> <p>本杉 省三部会長(劇場計画研究者(日本大学名誉教授))  明石 達生委員(東京都市大学都市生活学部教授)  倉田 直道委員(工学院大学名誉教授)  立川 好治委員(有限会社ニケステージワークス 代表取締役)  水野谷 良子委員(株式会社ヴォートル 代表取締役)</p> <p>【管理運営検討部会委員】</p> <p>高橋 進部会長(株式会社日本総合研究所チェアマン・エメリタス)  内田 裕子委員(経済ジャーナリスト、ハーベイロード・ジャパン副代表)  藤野 一夫委員(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)</p>
欠席者 (敬称略) (2名)	<p>天沼 ひかる委員(横須賀芸術劇場 副館長  公益財団法人横須賀芸術文化財団 業務部長)</p> <p>山中 隆委員(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール館長)</p>
開催形態	公開(傍聴4名/報道12社)
議題	<p>(1)会議記録に関する取扱い(案)</p> <p>(2)事業化に向けた検討</p> <p>(3)その他</p>
資料	<p>資料1:委員名簿</p> <p>資料2:席次表</p> <p>資料3:会議の記録に関する取扱い(案)</p> <p>資料4:令和2年度第2回 横浜市新たな劇場整備検討委員会  基本計画・管理運営検討合同部会資料</p> <p>資料5:提言の骨子案</p>

議事内容

- 1 会議記録に関する取扱い(案)
- 2 事業化に向けた検討
- 3 その他

**【高橋部会長】**

- ・まず、議題に入る前に10月26日開催の基本計画検討部会・管理運営検討部会の第1回合同部会の議事録について各委員の皆さまに配付をさせていただいております。皆さまにご承認いただきたいと思いますが、ご異議はございませんでしょうか。

**【藤野委員】**

- ・少しお時間をいただきます。議事録について確認をさせていただきました。私の発言通り正確に記載されているのですが、読み返して、やはり自分自身気にかかる箇所がございました。それは公営ギャンブルに関する発言の中で、公営ギャンブルの関係者の人権への配慮を欠くような表現があったのではないかとということが気になっていました。ですからこの点については私からまず関係者の方にお詫びをさせていただきたいです。そのことをこの議事録に補記させていただきたいなと思っておりますが、いかがでしょうか。

**【高橋部会長】**

- ・補記いただくということでしたが、それでは改めまして議事録の承認についてご異議ございませんでしょうか。

**【委員】**

(異議なし)

**【高橋部会長】**

- ・異議がないようですので、第1回基本計画・管理運営検討合同部会の議事録についてはこれで確定させていただきます。ご承認いただいた議事録については今後ホームページで公開させていただきます。
- ・それではここからは議題に沿って進めていきたいと思っております。なおご質問、ご意見については後ほどまとめてお時間を設けます。各委員からご発言をいただく場合は挙手をいただき、お近くにありますマイクを使ってご発言いただきますようお願いいたします。
- ・それではまず一つ目の議題、会議の記録の記録に関する取り扱いについて、事前に事務局から資料を送られていたかと思っておりますけれども、事務局から改めて説明をお願いします。

**【事務局】**

- ・芸術創造本部室長の尾仲から、議題の説明に入る前に若干背景についてご説明をさせていただきたいと思っております。
- ・先ほど藤野委員のほうからもご発言ございましたけれども、事務局を司っております市といたしましても、今回そういった部分につきまして削除をするというようなことを委員とご相談の上、行ったといったようなところがございました。

これにつきまして、改めて教訓といたしまして議事録ですとか、あるいは動画ですとか、その取り扱いについてどういうふうにやっていくことが、手続きとして適正なのであるかということについて、至らない点があったという教訓として思っているところがございます。今後こういった回数がどれだけあるかは別にいたしまして、せっかくいただいた教訓でございますので、ぜひ限られた時間で恐縮ではございますけれども、事務局のほうで取り扱いについて資料としてとりまとめさせていただきましたので、その点についてご議論いただければというふうに思っております。内容については部長の服部から説明をさせていただきます。

**【事務局】**

(資料3の説明)

**【高橋部会長】**

- ・ありがとうございました。会議の記録に関する取り扱い案について、ご意見ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

**【本杉部会長】**

- ・このような会議におきまして、意図をより分かりやすく反映するために議事録の一部を訂正したり、削除したりするなどはありうることとと思っています。今年から導入している動画については、会議の説明責任を果たす上で大変よい取り組みではないかと思っています。今回の件を教訓に事務局から説明がありましたように、訂正・削除に関するルールを定め、適切に運用していってほしいと考えています。よろしく申し上げます。

**【高橋部会長】**

- ・ありがとうございました。そのほかにご意見はございますでしょうか。
- ・それでは今回示された案に沿って今後運用していただくようお願いしたいと思います。
- ・それでは次の議題に移ります。資料4について事務局からご説明をお願いします。

**【事務局】**

(資料4の説明)

**【高橋部会長】**

- ・ありがとうございました。それでは資料についてご意見ご質問がありましたら、お願いしたいと思います。

### 【藤野委員】

- ・コメントというかご説明の追加になるかと思うんですけれども、最後に参考資料がついてますね。これは途中で説明されたもの、それを拡大したものです。この都市間の文化予算の比較というのは私も大変興味があって、いろいろ調べてはいるのですが、表になって横浜市が平均値よりも低いというのが出てきてショックでした。
- ・実は文化庁が「地方における文化行政の状況について」というデータを公表しています。これは夏に更新されるので、私が持っているのは平成 29 年度のデータに基づいた昨年度版です。最新版は平成 30 年のデータに基づいたものが今年の 8 月に出ているので、データが不正確かもしれないですけど、こういう考え方ができると思うのです。横浜市は政令市で、横浜市とそれから広域自治体である神奈川県と両方足して見た場合どうなのかということ、あるいは市と広域自治体がどういう風に補完関係をしているかという、そういう視点で見ると面白いと思うのですけれども、実は横浜市は、一人あたりの文化予算が少ないというデータが出ております。では逆に神奈川県が多ければ補完関係が成り立っているのではないかという考え方がある訳です。
- ・ところが私が電卓をはじめてみましたら、神奈川県の一人あたりの文化予算は 130 円しかないのです。ちょっとびっくりします。私が今年の 5 月くらいに日経新聞に書いたのですが、関西圏で調べてみたら、大阪府が少なくても 88 円だったのです。かなり波紋を呼んだのですが、それと同じくらい神奈川県は少ないのです。一般的にいうと私が住んでいる神戸も横浜も文化芸術創造都市として文化庁表彰を十数年前に受けていて、すごく芸術文化で頑張っているイメージなのです。このイメージ戦略がうまくいって、それは誇らしいのですが、中身を見ていると文化予算が少ない。神戸市も非常に少ないのです。
- ・要するに文化芸術創造都市に選ばれたということにあぐらをかいて、この十数年文化にそんなに力を入れてきていないというのが、神戸市の場合ですけど、実はそういう状況があります。その間に政令都市もそうですし、地方都市ですごく頑張っているところが出てきてしまっているわけです。その対比が 2010 年代にはっきり出てきています。
- ・データからお話しすると、神戸市の場合は兵庫県がすごく頑張ってくれていて、兵庫県は一人あたりの文化予算、これは施設建設費は入れない分で事業予算とそれから施設の管理運営を足したものですけど、兵庫県は一人あたり 700 円です。それから今日びわ湖ホールの中館長が見えていませんが、滋賀県は全国で断トツに多くて 1,220 円になっています。それから京都市はすごく上にいっていますよね。京都市は上にいってるんだけど、じゃあ京都府はどうかというと 310 円ですから少ないのです。
- ・だから市の割合と広域自治体の割合を足すとどうなるのか、そして割合はどうかというのを見ていって全体として per person でどのくらい文化予算が使われているのかという分析をしてみるといいなと思います。

- ・ いずれにしても驚くべきことは横浜市も少ないだけではなくて、神奈川県が 130 円という全国的に見ても非常に少ない数字が出てしまったということです。逆に言うとたくさん文化事業と文化施設がある東京に依存しているということになっているのかなと思います。その意味で横浜市は生意気な言い方ですけど、文化芸術の面でどこまで自立しているのかという、問題になってくる。
- ・ これは神戸市と大阪市の関係にも該当します。大阪市は非常に文化予算が少ないというか、この間に 10 分の 1 ぐらいに減らされてしまった事情があるのですが、ただ民間の力が非常に強くて、オーケストラは四つありますが、民間で頑張っていますし、民間が建てたホールがたくさんありますので、神戸市民は大阪に行ってそういうの（文化芸術）を享受しているという関係になっています。兵庫県でいいますと、神戸市が文化芸術創造都市というイメージであぐらをかいているうちに、一周後れを取ってしまった感じが僕はあるのですが、例えば日本海側に豊岡市という人口 7 万数千人の小さな市があります。そこは今やメディアの露出度、注目度だけでいっても神戸市は到底叶いません。150 万人に対して 7 万人の町なのに、いろんなところでメディアで扱われるんですね。文化芸術でもって地方創生をやっている成功事例。この前も演劇祭をやりましたけど。そういうふうに 10 年ぐらいの推移を見ても、大都市で文化芸術創造都市だっていわれている、そこにあぐらをかいているうちに、いつの間にか一周遅れになってしまうということ。そういったものは数字でもはっきり出てきていますので、やはり横浜市は、実際に文化芸術創造都市としてやっているということを維持するためにも、かなり文化予算の投資というのは必要になってくるのではないかと思います。

**【高橋部会長】**

- ・ それはちなみに東京都もあるのですか。データは。

**【藤野委員】**

- ・ 東京都もあります。東京都は 860 円です。

**【高橋部会長】**

- ・ 大都市になればなるほど、一人あたりで見ると減る傾向があると思うんですね。だけど、東京は結構やってるんですね。

**【藤野委員】**

- ・ 市でいうと金沢なんて突出して多いですね。

### 【高橋部会長】

- ・ そうですね。ありがとうございます。他にご意見ございましたらお願いしたいと思いますけれども。

### 【内田委員】

- ・ 今回、市費の投入というところが強調されてきています。ここは本当に大切に、皆さんが注目するポイントかと思うのです。これまで散々議論してきたことでもあるのですが、厳しい横浜市の財政状況というのが出ています。そうなる抑制型、いかに市費を投入しないようにするか、市費投入というものに関していうと、安ければ安いほどいいのではないかと、抑えた形でやらないといけないのではないかとというプレッシャーも感じられてきてしまうわけです。最低レベルの収支の中でやったほうがいいのではないかとというような議論になってしまう。もちろん市の血税をとということでもありますので、そこは慎重に、丁寧に説明をするということが大事で、議論は悪いわけではないのですけれども、私が懸念しているのは、それだけで今回の新しい劇場というものが捉えられてしまうのがとても心配だと思っています。

過去を振り返るとバブルのころは、とにかくハコモノというような形で日本中に様々な劇場なり会館なりが作られたわけです。でも、それは建物を作るのが目的となってしまうと、素人の運営と、あとは中途半端な作品の上演になっていった結果、運営が厳しい、採算が全く合わなくなってしまって市税を垂れ流すというような状況があった。そういう記憶がどこかに皆さんあるから、とても今回の劇場に対しても大丈夫なのかという心配が多いと思うのです。

- ・ 今回はそうした様々な失敗もふまえながら、全く違う次元でこの劇場建設ということを考えていくということだと思ふのです。要は中身なのです。もちろん今、建築ツーリズムという言葉もあって、素晴らしい価値のある建築をすれば、それだけを見に人が世界中から集まってくるという現象もあります。だけれども、劇場の本質は中身ですから、建物を建てるということばかりではなく、いかに素晴らしいものを上演するかです。
- ・ ただ皆さんがどこかで見たことがあるものと呼んでくるだけではなく、横浜発の新しい作品を生み出してクリエーションをして発信するということも挑戦するという、そういう価値のあるものにしていくということです。先ほども藤野委員もおっしゃったように、横浜は文化芸術創造都市と、大きく掲げているわけです。これは、横浜のブランドを世界的に打ち出していくときに、すごく大事になっていきます。そのビジョンの中核をなす劇場であるということです。そうすると単なる横浜の劇場ではなく、日本を代表する劇場であり、もっというとアジアを代表する劇場である。そういう位置づけです。

そこは単なる建物を建てるというレベルを超えた劇場を「経営」する、事業として運営していくということになっていくわけです。ですから、コスト削減とか言っているだけでは駄目で、当然事業ということでもありますから、売上を上げていくということです。そうすると事業であるからにはしっかり投資をしていくという考え方は、経済の世界では常識です。どういう劇場を目指すか、散々皆さんとここで議論していますけれども、世界の中のパリ・オペラ座であるとか、ミラノ・スカラ座であるとか、ウィーン歌劇場であるとか、ニューヨークのメトロポリタンオペラであるとか、そういうものと全く遜色のないような存在感のある劇場を作っていくということになっていますから。そういう前提でわれわれは議論をしていますので、視野が小さくならないようにということがとても私は大事だと思っています。その効果というものをもちろんきちっと試算していくのですが、これも、「これはいいですね、世界中から人が呼べますね」というような、素晴らしいアート、芸術を生み出していき、それがゆくゆくは横浜市民の皆さんがしっかりとリターンとして得られる。そうなるための投資をしていくという考え方だということです。ですから、市費をどんどん吸い上げられていく、税金を使う事業というだけの考え方だとまずいなと思っています。

- 本当に文化芸術創造都市というものを積み上げていくためには一朝一夕では、できるはずがないわけで、中長期的な視点を持って育て上げていく、投資をしていくということになっていくと思います。今挙げたようなパリであるとかニューヨークであるとかウィーンであるとか、そこはみんな100年かけてそういう芸術を醸成させていって、今の劇場の存在感というのを生み出しているわけです。ですからここから横浜の新しい劇場がスタートするという意味においては、当然のことながら一流のものを目指していく、中長期的な視点で投資をしていく、そういう考え方を前提としていただきたいと思います。
- ですので、市が直接それを投資していくのか、ファンドのようなものを組成して投資をしていくのか、劇場自体が投資をしていくのか、債権を発行しながら運営するのか、いろいろな投資の仕方というのが考えられるので、それはこれからじっくりと考えていけばいいことだと思いますけれども。ここで私が言いたいことは何かというと、市費負担というのは、議論として大事ですけれども一方で、劇場が、横浜市がこれから攻めていく、文化芸術創造都市を本気で作っていくための成長戦略としての位置づけ、その軸であるという議論。この両方をしっかりと踏まえて、劇場の話をもとめていただきたいなと思っています。戦略的投資という部分をもっと強調して、中身を本気で考えていく。市費の投入、税金が吸い上げられていくという視点だけではない、しっかりと投資をすればリターンが返ってきて横浜市のためになっていくのだというところ、ここをしっかりと議論して考えていくべきだと思います。

**【高橋部会長】**

- ・ありがとうございました。劇場への投資について、短期的にコストを抑制して効率的な投資をすることは当たり前です。ですけど、長期的視点に立って長期的効果を上げるための戦略的投資はきちっとやっていくということです。よくおっしゃる残念な劇場にはいけないということですよね。

**【内田委員】**

- ・それだけは絶対に。市民を裏切ることになります。

**【高橋部会長】**

- ・私もついでに申し上げますと、劇場への投資だけではなくて、ペーパーの中で触れられている都市戦略、文化芸術による都心臨海部の都市戦略、ここが今日例えば、交通課題への対応ということで駐車場のお話しが具体的に出ましたけど、それ以外にも劇場を作ることに関連する施策と、それ以外の横浜の都市戦略をもっと連携させる余地はたくさんあるのではないのでしょうか。

そうすることによって劇場としての効果も上がるし、それから劇場があることによる都市戦略としての効果も上がってくると思いますので、ぜひともそこは他施策と連携をして、必要なところにお金をつけて都市としての魅力を上げていくということが必要なのではないのでしょうか。

**【内田委員】**

- ・MICE とかで来るような世界中のエグゼクティブとかも劇場をセットで観たいと思いますし、MICE を呼び込む効果にも絶対になると思うのです。

**【高橋部会長】**

- ・ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。

**【本杉部会長】**

- ・8ページ、10ページについてコメントしたいと思います。8ページの大規模修繕に関連付けて、右下の「取組方針3 人材の確保と育成」があり、そこに舞台機構などの人材をと書かれています。舞台技術に関する人材育成が書かれているのはとてもいいことだと思うのです。大規模修繕との関連がここであるのが良いのか、据わりは気になりますけど。
- ・人材については、今までアーティストや出演者が中心で、当然舞台に立つ一番重要な役割を持つ人ですから、そこに重心が置かれるというのも頷けるのですが、同時にそれらを支えていく人材というのもとても重要で、なかなかそういうところに着目をした運営あるいは社会的な教育がなされていないと思うのです。



例えば専門学校で舞台照明や音響の教育はされていますが、大学レベルでそういうのをやっているところは、なくはないですけど弱いです。演劇学科がないということもよく言われることだと思います。劇場というのは非常に幅広い活動の場で、例えば日本の劇場になかなかいない人材の一つが、ドラマトゥルクという分野です。制作の骨格を作っていくような、歴史的にも、あるいは作品の解釈とかについても精通している人たちで、欧米のオペラハウスとか普通の劇場でもドラマトゥルクの分野が必ずあるわけです。日本だと貸劇場がずっと中心になってきてしまったというのもあって、そうしたドラマトゥルクに関する人材というのは、いなくはないのですが、大きく欠いている部分ではないかと思うのです。

- また劇場を通した教育プログラムも非常に不足しているのではないかと思います。著名なオペラハウスやコンサートホールでも非常に幅広い活動をしていて、その一部である教育プログラムというのは、重要な役割を持っています。そこにはやはり専門的な、教育に関する知識と経験を持った人たちが配置されて活動にあたっています。10 ページにアウトリーチ、地域社会への参加を含めた目標を書いていますけれど、そういったところで非常に重要な活動をしていく役割を持った専門職ではないかと思うのです。そうした人材をつくっていくことができると、単なる上演施設ではない、非常に幅広い社会的な存在になれるのではないかと思います。ですから当初書かれていたと思うのですが、その点についても触れていただくといいのではないかと思います。
- それらは10ページの「多面的効果」というところでとりあげてほしいと思うのです。ここに大きく三つの項目で書かれています。産業・企業活動の中でも書かれています。これからの企業は、今もそうですけれども、環境問題や文化活動への問題、取組というものを行っていないと社会的に問題意識が低いと評価されてしまうことがあります。
- やはり積極的に環境問題に取り組んでいくということが、会社のコンプライアンスにつながってきます。例えば、卑近な例でいえば白熱灯があります。ほとんど社会ではLED化してきているのではないかと思います。日本ではまだコンビニなどで100円ぐらいで普通の白熱灯が売っていますけれども、売っていない国もあるわけで、もちろんそのためにそれらを製造する会社の責任というものも問われるような時代になってきているのではないかと思います。そういった意味で環境問題への取組や文化活動への取組というのは、我々一人一人の問題であると同時に、劇場にとっての問題でもあると言えると思うのです。

劇場もそういった文化活動への取組や環境問題への取組を担う先端の一員になっていくのではないかと思います。

- ・その意味で地域活動に貢献していくリーダーの人たち、ここでいう地区センターや区民文化センターなどで活動している市民の人たちに対して、より積極的に様々な知識や経験を生かしていくような人たちが、こういった施設でもう一度研修して、地域の文化活動を担っていくというような流れを作っていくことが、価値ある活動につながっていくのではないかと思います。
- ・先ほど、世界的な劇場の話が出ましたが、例えば東京文化会館であってもようやく60年くらい経つわけですね。東京文化会館というのはご存じの通り、英語でも Tokyo Bunka Kaikan と言われます。東京メトロポリタンなどとは言わず、そのまま東京文化会館と英語でも言っているのです。60年くらい経って、かつ様々な活動をしてきたことによって、そのくらいになってきているのです。
- ・舞台の裏側にいきますと、これは立川委員がよくご存知だと思いますけれど、びっしりと著名な音楽家や指揮者、演奏家などのサインが壁一面に書いてあり、探すのが大変なくらいです。そういった活動の蓄積が、その名前を世界に知らしめていると思うのです。
- ・残念ながら東京文化会館は主に貸劇場です。年間にももちろん自主制作、東京都が主催する公演をやっていますけれども、中心的な活動は貸劇場で、先ほど言ったようなエデュケーションプログラムもありますが、まだ弱いところがあります。ドラマトゥルクの人たち、専門家は残念ながらいません。プロデューサーも残念ながらいません。そういった劇場固有の専門職というのが、こういう活動をしていくことによってより高まっていきますし、その必要性がより日本中の劇場に伝わっていくのではないかという期待が持てるのではないのでしょうか。ですから人材と専門的な職業、役割というものをきちっと謳っていき、それを活動に繋げていってもらいたいということがとても大事ではないかと思っています。以上です。

#### 【高橋部会長】

- ・ありがとうございます。10 ページにありますけど、多面的な効果で私が感じたのは住民と地域コミュニティの「中長期的な出現効果」というところで、もともと「感性豊かで創造性に富んだ人材の育成」というのがあったと思うのですが、これが入っていないですね。そういう人がいて、例えば真ん中で劇場関連人材とありますけれども、今のお話だと、例えば社会課題についても幅広い視野を持った専門人材が生まれてくると、非常に相乗効果が出てきます。
- ・だから人材と一言で言っても、従来型の人材というよりは、今まで日本にいないような人材、大きくは二つあるのですが、アーティスト、クリエイター系、あるいはそれを支える人材と、感性豊かな人材という、いわば一般の人、とあると思うんですけど、その両方がうまく育って、相乗効果が出て、職業として高い次元の人材になっていくのが一番理想だと思うので、そういう、うまい書き方ができるといいと思うのですが、ちょっと書き方は難しいかもしれないです。他にありますか。どうぞ。

## 【明石委員】

- ・大事だと思うことは全部、内田委員が先におっしゃってくれたので、ほとんど付け加えることはないですが、今回の資料で、この劇場整備というのは投資だということが書いてあるのが一番重要だと思います。私自身は都市政策が専門なので、その立場からの言葉でいうと、都市のブランド価値を上げるための投資なのですけれども、今、グローバル化やそういう時代の中でランキングに何でもなってしまうのです。ランキングの中で何番目などという、本当に埋もれてしまい意味がないというところがあり、それではなく他にはない個性というのがしっかり出るのが、生き残るところだと思うのです。
- ・特に横浜のことでいうと、東京が一番で横浜が二番、大阪が三番などというようなことになっては決していけません。結局、量で勝負してしまうと、あるいは首都東京というところがあるのですけれども、前回も議論になりましたが、大事なことというのは本社機能が立地することなのだと思うのです。それが法人市民税というものの源泉なので、単に従業員が増えるということだけではなく、しっかりと本社機能が立地します。本社機能は横浜にあるということがブランド価値になるようであれば、来るのだと思うのです。
- ・前に神戸の話をしましたが、わざわざ神戸に本社を置くということがブランド価値になって、会社をそこへ置いたり、あるいはミラノやウィーンなどもそうなのだと思うのです。それを作るということの投資なので、ここではあまり数字ではじくことが非常に難しいですが、支出の構造だけではなく、横浜の収入の財政構造を変えていくことを含めての投資、そのためには横浜でなければ駄目だという企業を作っていく、原宿でもなく青山でもなく横浜なのだという企業を作っていく、そういうことのためには、例えば今回の劇場ではバレエに関しては絶対に一番ということをやろうとしていますし、そういう面がすごく大事なのだと思います。
- ・あと、細かいことですが、広域的アクセスということが書いてあり、バスがないなどいろいろと書いてあるのですが、外から見ると横浜シティ・エア・ターミナル、YCAT というところが距離的には歩いていける距離にあり、さらに横浜駅というのは日本でも何番目で世界でも何番目くらいに人の乗り降りのあるアクセスのポイントなので、そこのつながりというのが現在は、確かにペDESTリアンデッキはあるのですが、複雑なところでは、日産自動車の中を歩いて来ないといけないなどもあります。ここにはそのようなことを書いてなく、アクセスが悪いとだけ書いてあったので不思議だと思いました。あまり本質的なことではないと思うのですが、横浜駅と目と鼻の先にあり、そこにはシティ・エア・ターミナルもあり、反対側の桜木町駅の方はランドマークタワーの間に動く歩道を付けたりなど、いろいろなことをしてアクセスを確保していますから、こちらにもあつていいように思います。これはここの会議の範疇を超えるかもしれないですが、それが細かいことで気づいた点です。以上です。

【高橋部会長】

- ・ありがとうございます。今までのところで事務局から何かありますか。

【事務局】

- ・大丈夫です。

【高橋部会長】

- ・他にご意見ある方、お願いします。

【倉田委員】

- ・すでに他の委員の方がおっしゃっているので、それに対する追加になるかもしれませんが、「多面的効果」というところで、ここに記述されていることは非常に即物的で、視野が狭いというとなんですけれど、もう少し大きくこの多面的効果というのを捉える必要があるのではないかと考えています。特に地域コミュニティ、住民ということではありますと、これは21世紀に入ってから言われていることではあるのですが、これからはクオリティ・オブ・ライフだということが言われているわけです。そういう中で、おそらく横浜にとってクオリティ・オブ・ライフというもの、生活の質を支えるものの一つとして、こういう文化芸術環境、あるいはそれに対するアクセスというものがあるのではないかと考えています。世界に暮らしやすい都市、リバブルシティという概念があり、それがどのように評価されているかというのを見てみますと、時代によってかなり変わってきているのです。その時代の価値観がそこに反映されて、指標というのが設定されているのですが、都市がどんどん成熟していくと、そういった要素が強くなってきているということが一つあると思います。
- ・これは私自身の実感でもあるのですが、短い期間ですけれど海外に暮らしていて、「ここで暮らして良かった」と思うのは比較的身近なところに、劇場に限りませんけれども、美術館であるとか、そういうものが身近なところにあって、日常的にも気楽に訪れることができる、そういう環境にあるということも実感しました。そういう要素は非常に大きいと実感しましたし、そこで暮らしてよかったと思ったりもしました。
- ・これは先ほどから都市のブランドという話が出ていますけれど、市民の立場から言うと、これはシビックプライドになると思うのです。そこに暮らしていることの誇りというものにつながっていくのではないかと考えています。そういう意味で、皆さんもおっしゃっているように、この事業に対するコストなどは、長期的に見た投資という視点が必要ではないかと考えていて、それはまさに12ページにある都心臨海部の都市戦略というところにもつながっていると思います。

それだけではなく、横浜市全体に対してのこれからの戦略という中に位置づけられるものです。それは先ほどから話に出ているように、文化芸術創造都市と横浜もうたっているわけで、それはある意味、都市戦略でもあるわけです。そこをより強固なものにする大事な要素ではないかと思っています。

- ・あとは、これも「多面的効果」ということで、ナイトライフの話がありましたけれど、海外に旅行するとき何回も同じ場所に訪れていると、例えばニューヨークにしる、ロンドンでも、物見遊山で見て歩くことはだんだん少なくなってくるわけで、その次に何が楽しみになるかという、「今夜は劇場で観劇を」、ニューヨークでいえば「オペラを観よう」、「ミュージカルを観よう」という旅の仕方も、非常に当たり前になるような気がするのです。

実際にいろいろニューヨークあたりのツアーを見ていると、そういうものとセットになっているツアーも非常に多く、それが第一の目的でツアーをするという人もいるぐらいです。これから先の一つのインバウンドの行く先として、そういう要素も非常にあるのではないかと感じています。

- ・交通課題について、自分の専門なのでそこに触れさせていただきます。臨海部の交通の問題というのを、この敷地だけで解決するというのは非常に無理があり、やはり交通の問題というのはもう少し地区全体で考えるべきではないでしょうか。それもただ単に、バスの需要があるから、バスの駐車場があるからということではなく、もう少しこれからの都心臨海部の交通の在り方というところまでを考え、駐車場について考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- ・現に、ここ1、2日のニュースだったと思いますけれど、東京都も駐車場の附置義務の制度を、抜本的な見直しをするということを打ち上げており、実際に今そういう状況にあります。駐車場の附置義務をやってきた結果、例えば銀座でもそうなのですが、駐車場が余っていて、逆にそれを運営するコストだけが高くなってしまっているという状況でもあります。新宿あたりでも同じようなことが言えます。そういう意味ではもう少し面的に見て、これからの交通の在り方も含めて駐車場を考えるということが大事ではないかと思っています。私からは以上です。

#### 【高橋部会長】

- ・ありがとうございます。事業効果のところは10ページ以降にあるわけですけど、「(1)多面的効果」ということで横浜市、あるいはそれを超えて神奈川県民という視点まで入っていると思うのですが、文化芸術による都心臨海部の都市戦略というところで、臨海部の話に集中してしまっているのかという部分が少しこのペーパーから抜け落ちた形になっているのかなという部分はあるので、どうしますか。そこを少し工夫いただくか、あるいはあとで提言の骨子案のご説明があると思うのですが、そこで少し加筆する手もあるのでしょうか。あとでご説明があると思います。

- ・いずれにしても同じようなご指摘をいただいたので、書き方の問題ですが、事務局として工夫できるところは工夫して、プレゼンの仕方を考えていただければと思います。他にご意見ございますか。はい、どうぞ。

#### 【立川委員】

- ・先ほどから内田委員はじめ、各委員が話されたことについて、全面的に私もその通りだと考えます。ただし、今までここで議論されていたような劇場というのは、日本でできたことがないのです。日本で最初の試みだと思えます。そのときに何が必要か、これはもちろんこれから先、時間をかけて練っていくべきことだと思いますけれども、このような理想的な劇場というものが、あるべき形に向かっていくには、どのような施設がどれだけ、どのような形で劇場の中に存在すべきかということと、ほぼ不可分に話が進むべきことだと私は思います。
- ・それからもう一つ、例えばその劇場を支えるスタッフ、それからその劇場で公演する日本または海外の公演団体との関係をどのように作っていくかということは、同じように大事なことなのです。例えば外国の大きなオペラハウスのプロダクションの計画というのは、3年先、5年先くらいのもので決まっているわけです。ですから、そのへんのことは、劇場はもちろん、いつどのような形で実際に建設が始まるかということもありますが、その計画と同時に公演団体との関係や、運営するスタッフの育成など、そのようなものはほぼ同時に進めないと、劇場が開いた瞬間にそういうものは始まって来るわけですから、そのへんの長期的なプラン、もちろん周辺の環境だけではなく、中身のことも長期的な計画を持って考え進めていかないと、なかなか今考えているような形のホールの運営ないし中身というのはできてこないのではないかと思います。
- ・何回か申し上げましたが、運営とハードウェアというのを同時に進めていく、同じように考えてハードウェアだけが先行する、またはソフトウェアだけが先行するという形ではなく、あくまでもその中で演じられる、例えばバレエ、オペラ、その他の公演についてどのような形を考えていくか、どのような形で、例えば各公演団体との関係を作っていくか、そのためにどのような施設が必要か、その施設をどのように管理・運営していくかということ、不可分に、同時に進めていかないと、なかなか上手くいかないのではないかと思います。もちろんこれは、先ほど申し上げた通り、日本で初めて考えられているような劇場と、劇場の運営スタイルだと思うので、このことを大事に守って実現するために、みんなで知恵を出し合い、その方向に向かってサポートしていくということが大事だと思います。

#### 【高橋部会長】

- ・ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。

#### 【水野谷委員】

- ・私も委員の皆さま方のこれまでのご意見、全くその通りだと思って聞いておりました。私はこれまで劇場における、おもてなしの重要性について話をしてきました。多くの利用する人たちに満足してもらえる劇場となれば、自ずと劇場は活性化していきます。活性化すれば、今いろいろ議論していったことにもつながって、どんどんいい方向に向かっていくと思います。  
まず満足してもらえる劇場ということですが、これは使い勝手がいいということに加え、安全、それから安心性に対する信頼感から生まれます。この信頼感から満足感が生まれれば、市民をはじめ、利用する方々をさらに惹きつけていくことになります。
- ・平穏なときは意識されないことなのですが、緊急時にどう対応したかということが現場では問題視されることとなります。高齢化社会になっている現在、緊急対応が非常に増加しているのが現実です。その際、非常に具体的な内容になってしまいますけれども、一次対応するスペースはどこにあるか、救急車動線はどうなっているかなど、こういった点は現場で仕事をする者にとっては大変気になるポイントです。
- ・一方、いわゆるモンスタークレーマーという方々も残念ながら増えているように感じますが、これらの対応をスムーズに行うためのスペースがなかった場合、今まで申し上げてまいりました、おもてなしの空間というのは全く台無しになってしまうということがあります。
- ・さらに2011年の震災のとき、劇場は帰宅困難者の対応拠点としてその役目を果たしたところもありました。このあたりはいろいろと議論が出されることになるかと思えますけれども、先ほど最初のページの方に大規模修繕の対応でも触れられていましたが、安心・安全性に対する信頼感、これはコロナ禍でおもてなし空間においてもさらに今注目されてきていると感じます。その点についても十分に検討して、劇場としての考え方、これを打ち出していかれると、内容的にもっと実態感を備えたものになっていくのではなからうかと思いました。以上です。

#### 【高橋部会長】

- ・ありがとうございます。他にご意見ございますか。よろしゅうございますか。それでは続いて資料5について事務局から説明をお願いいたします。

#### 【事務局】

(資料5の説明)

#### 【高橋部会長】

- ・それでは骨子案についてご意見ご質問ありましたら、お願いします。この骨子案はあくまでも事業化に向けた提言の骨子ということでよろしいですね。

**【事務局】**

- ・はい。

**【高橋部会長】**

- ・ご意見ありましたらお願いしたいと思います。

**【藤野委員】**

- ・基本的にこれで素晴らしいと思うのですが、一点、補足説明いただきたいところがあります。「負担の妥当性と事業化について」のところ。「試算の結果、収支構造は、劇場運営の中心である鑑賞事業はチケット代(一部国費含む)により賄うこと」とありますね。そのあとは「市費の負担はこれこれである」というふうに、国費と市費を便宜上分けているのですけれども、この鑑賞事業、今日の資料には細かくは出ていないですけど、この中には自主制作とか場合によっては国際共同制作のものも含まれるでしょうし、それから海外招聘のものも含まれると思います。ですからその中に国費が含まれる可能性は当然あると思います。文化庁とか地域創造とか文化芸術振興基金のメニューの中でこれにふさわしいものを探して、ということになると思うのですが。しかしまた市費の負担は以下のところ、新作の制作などの創造と発信とか、次世代育成とかフェスとかっていうのは、これのほうがむしろ鑑賞事業よりも国のメニュー、文化庁のメニューを引き出しやすい部分かと思うのです。そうすると、市費と書かれているものの中に国費が入り込んでいるのか、それとも市費と国費を分けて考えられているのかというのが分かりにくい気がするのですが、そのあたりどのように整理されていますか。

**【事務局】**

- ・申し訳ありません。書き方が確かに。創造と発信も、鑑賞事業の中に含んでいて、鑑賞事業は基本チケット代で賄いますので、そこに一部国費が入ってくるというのが創造と発信事業だと思しますので、そこに対する裏負担として市費を入れていくというような考え方でございます。通常のレポートリーメニューについてはチケット代で基本賄っていくということで整理をさせていただいたかと思えます。表現上ごっちゃになっている感じでしょうか。

**【藤野委員】**

- ・この表を見ても上の鑑賞事業のところは市費はありません、となっていますよね。下の創造と発信事業7億、とか次世代育成の4億に対して3億の市費が入っています。でもここの市費の3億円の中に国からの補助金も入って市費とみなすという考え方で合っていますか。



### 【事務局】

- ・私のほうでもう一度補足をさせていただきますが、本来鑑賞事業というのは創造と発信を含んでしまっている場合も、広い意味での鑑賞事業という整理もあるのですが、今回の管理運営部会ではいわゆる通常の劇場で言うなら貸館でやっているような鑑賞事業です。今回の劇場ではそこではしっかりと芸術性を高めるために基本は共催や自主でやりたいです。

そういう意味で鑑賞事業という項目と創造と発信、次世代を一応分けました。鑑賞事業で一部国費が入るといのは、通常の貸館の場合は実演団体に補助金が入っている場合がありますので、それがひょっとするとわれわれのほうに入ってくるかもしれないということです。それは裏負担というよりはそういう国費が入ってくるかもしれないという領域で、一部国費を含む可能性があるというような表現をさせていただいております。創造と発信と次世代につきましては今まさに藤野委員が言われた、今までも入っている事業であり、当然市費もそこには、例えばDance Dance Danceなどを今後劇場が中心になってやっていく場合は、国費も入れば市費も入るといような形で分けました。そういう意味では一部国費というのが場合によって誤解を招くかもしれませんが、逆にいうと一方で国からの単独のメニューもひょっとしてあるかなという意味で、こういう表現をさせていただいております。

### 【藤野委員】

- ・チケット代のあとにある「(一部国費含む)」というのは誤解を招くので、そこではなく、全体を通して一部国費が入っている、あるいは市費の負担のあと、市費の中に一部国費を含むといったほうがいいのか、どうでしょうか。

### 【事務局】

- ・よろしいでしょうか。引き続き検討させていただきますが、やはりこれまでの議論の中で、誤解を招くのが「チケット代だけで絶対賄えるんだよね」と言われると、実を言うとそうもいかない場合があつて。繰り返しになりますけれども、貸館の場合は、劇場にはお金が入ってきませんが、実演団体にはある一定の国費が入ったりしますので、それは、自主でやった場合に実演団体が従来いただいていたお金を劇場がどういう形でそれをインクルードできるかというのが、まさにこれから文化庁といろいろと相談しなくてはいけないところがあります。チケット代のみで鑑賞事業を全て賄えるというふうな誤解があると、これはまた厳しいところがございますので、誤解が招くのを分かっているながらこういう表現をさせていただきましたけれども、今のご指摘を踏まえてもう少し書き方については誤解を招かないように検討したいと思っております。

**【高橋委員長】**

- ・他にございますでしょうか。

**【明石委員】**

- ・最後のまとめになるので、どういうキーワードなどをしっかりと印象づけて語っていくのがいいかということが大事なところになるかと思います。先ほど皆さんから、内田委員を含めて意見のあった、これは投資なんだと、市にとって、という点がすごく私は大事だと思うのです。後ろの方に出てきているのですが、もっと始めの方からきちんと言って、事務局から肝の部分だと説明されたところはとてもネガティブな説明が多かったのですが、なんのためにやるんだというのは一番大事なことなので、そういうところを強調した方がいいと思います。それからもう一つ、先ほど倉田先生がおっしゃっていたシビックプライドという言葉があります。なるほどと思ったところで、私らの専門としてはいい言葉だと思ったりもするので、もしかしたらそういう言葉を使うのも、ブランドだけではなく、ご検討いただければと思います。以上です。

**【高橋部会長】**

- ・ありがとうございます。裏面の積極的投資というところで、投資額が他都市に比べて低いという量の話が先に来てしまっているのです。せつかく質のところを議論しているので、横浜のブランド価値、それが企業にとってのブランド価値と、今おっしゃった市民にとってのブランド価値が両方あるということや、あとは他の施策と連携させて劇場運営の効果を上げると同時に、都市の魅力を上げていくということが必要だということと一緒に加えていただいて、書く場所をどこにするかということかなと思います。事務局、いかがでしょう。ちょっと工夫していただければと思うのですけれども。

**【事務局】**

- ・ありがとうございます。今日のご議論を聞かせていただきますと、やはり基本的考え方の部分だと思うのです。やはり整備の基本的考え方というところに投資、あるいは将来、あるいはまちづくりというようなことですので、負担の妥当性、事業計画の検討、運営体制の前あたりなどで、こういう劇場を目指していくという投資の基本見解をしっかりと入れて、一方で事業化といったところでは妥当性という話に入っていくというほうが、今のご意見を聞いているとそのほうが流れるような気がしますので、少し宿題で預からせていただきたいと思います。

### 【高橋部会長】

- ・引き続き検討いただきたいと思います。他の点でございますでしょうか。
- ・なければ、そろそろとりまとめに入りたいと思います。今日も様々なご意見を頂戴しました。合同部会を含め、両検討部会で約5か月間、合計10回にわたり、事業化に向けて判断材料となる事業計画について詳細な検討を行ってきました。本日、皆さまのご協力のおかげをもちまして一定の到達点に達したと思います。検討部会は今日でひと区切りとしたいと思います。ありがとうございました。引き続き検討委員会での検討や、事務局での作業はあります。ぜひ今後も皆さまの力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。
- ・そこではこれまでの議論のとりまとめにあたり、次に3点を確認したいと思います。
- ・1点目は合同部会を含め、これまで両部会で積み上げてきた検討内容について事務局においてしっかりとりまとめをいただき、検討委員会へ報告をするようお願いいたします。
- ・2点目は提言の骨子案について、本日様々なご意見をいただきました。本日のご意見もふまえて、この骨子案を提言案としていただくためには、今後も検討部会の委員の皆さまの知見が必要不可欠でございます。これから提言案を作成していく過程の中で事務局から各委員の皆さまに交互にご相談することがあるかと思っておりますけれども、ぜひご対応いただきたいと思っております。
- ・3点目は内田委員からご指摘いただいた市費の負担論についてですけれども、私も市費負担について収支だけで本部会の結論になってはならないというふうに思います。目線を上げる必要があると思います。市費の負担論についても劇場の外向き経営により、中長期的な成長戦略のために投資していくという議論と、両論としてまとめることが大事というふうに思います。そのためにも資料の肉付け、強化など委員とご相談してまとめていただく必要があると思いますので、相談してまとめていただくと共に、提言案に盛り込んでいただくようお願いしたいと思います。
- ・以上、本日のとりまとめとしたいと思います。皆さま何か追加でご意見はございますでしょうか。あるいは全体を通じて何かございますか。
- ・それでは進行を事務局に戻したいと思います。

### 【事務局】

- ・長い時間のご審議、誠にありがとうございました。それでは以上をもちまして、横浜市新たな劇場整備検討委員会、基本計画検討部会、管理運営検討部会の第2回合同部会を終了いたします。本当にありがとうございました。